

刑事模擬裁判や ルール作りなどを体験

サマースクール2017開催

8月10日、当会主催のサマースクールが開催された。サマースクールは、中高生を対象として開催されている毎年恒例の夏のイベントである。今年は、県内に在住または通学する合計41名の中高生が参加した。

朝から夕方まで1日がかりで行われるサマースクールの開催には、例年、横浜地方裁判所及び横浜地方検察庁の協力を得ていることから、裁判所・検察庁の施設見学や法曹三者の座談会、実際の法廷での模擬裁判といった多彩なプログラムを用意することができている。午前中は、施設見学、座談会、ルール作り体験のうち、生徒たちがそれぞれ希望する一つのプログラムに参加した。

座談会では、各室1名ずつ加わった裁判官、検察官及び弁護士から、生徒の質問に答える形で、仕事上の経験談や裏話などが披露された。参加した生徒からは、法曹や司法への理解が深まったという感想が多く寄せられた。

模擬裁判の様子

ルール作り体験は、今回新たに追加されたプログラムである。カラオケ店の営業に利害関係を有する様々な当事者のいずれかになりきり、他の当事者と意見を交わしながら営業に関するルールを形成していく。他人の意見を踏まえて、自分の意見のどこを譲歩するか、あるいは別の条件を加えるのか、生徒たちは、法規範の成り立ちや紛争解決の過程について、苦勞しながら疑似体験していた。

午後には、殺人事件を

全国一斉 銀行カードローン問題 ホットライン開催

8月1日、各地の弁護士会で、銀行カードローンの債務者に向けて、全国一斉銀行カードローン問題ホットラインが開催された。

貸金業法には、貸金業者からの借入残高が年収の3分の1を超える場合は新規の借入ができないという総量規制の定めがある。しかしながら、銀行には銀行法が適用され、貸金業法の適用は除外されるため、総量規制の定めが適用されない。

貸金業者から貸金業者から銀行へシフトする。銀行の貸付による多重債務相談が年々増加している。日弁連では被害実態を明らかにするため、この度、ホットラインを設け、相談を受け付けた。

当会では、午前10時から午後4時まで2回線を用意し、電話相談を行った。全国で351件の相談が寄せられ、当会には24件の相談が寄せられた。

当日の相談は、担当弁護士が相談者の収入、支出、借金額などを聴取し、任意整理、破産、個人再生のいずれかを勧めるという通常の債

電話相談に対応する担当者

銀行ヘシフトする。銀行の貸付による多重債務相談が年々増加している。日弁連では被害実態を明らかにするため、この度、ホットラインを設け、相談を受け付けた。

銀行貸付にも総量規制を

銀行貸付による多重債務相談が増加している現状において、銀行にも貸金業者同様の総量規制を及ぼすことが必要ではないかと感じた。

全国的に論破してやろうという気概に溢れた意見表明が多く、頼もしさすら感じる場面もあった。

全体評議の結果に基づき現役の裁判官から判決が言い渡された後、裁判官、検察官、及び弁護士から講評が述べられ、生徒たちは、ノースайдで講評に聞き入っていた。

裁判官からは、判事補なので自分で判決を言い渡すのは初めてだったという話も出て、生徒たちは驚

題材とした刑事模擬裁判を、横浜地方裁判所の実際の法廷を借りて実施した。生徒たちの多くは、裁判官、検察官及び弁護士のいずれかに配役され、台本に沿ってそれぞれの訴訟活動を行った。

題材となった事例が、犯人性（被告人が犯人であるか否か）を争点とする事例であったため、生徒たちは、裁判所から弁護士会館に戻った後、班ごとに分かれ、被告人が犯

人であるか否かについて証拠をもとに検討した。生徒たちには、班ごとに検察官か弁護士のいずれかの立場があらかじめ与えられ、その立場から主張を構成することが求められたが、証拠の評価や想定される相手の反論を注意深く検討している姿が印象的であった。

引き続き行われた全体評議は、班内評議の結果を発表して評議する場であったが、相手を徹底

的に論破してやろうという気概に溢れた意見表明が多く、頼もしさすら感じる場面もあった。

神奈川県弁護士会新聞

発行所
神奈川県弁護士会
横浜市中区
日本大通9番地
☎045-211-7707
URL <http://www.kanaben.or.jp/>

臨時総会開催のお知らせ

日時…平成29年10月26日(木)午後1時
場所…横浜市開港記念会館講堂



神奈川県のアウトラインと天秤をモチーフにした神奈川県弁護士会のロゴマークです。

山ゆり

秋は収穫の時期である。古今東西、祝いの季節とされ、また、快適な天候ゆえに、行事も目白押しだ。秋祭りや、運動会に、学芸会。心浮かれる季節なのかもしれない。

▼しかし、私は、秋が今一つ好きになれない。冬に向かう感じが、気分を押し下げるからか。いや、一番の理由は、旧司法試験の論文発表のせいだと思う。10月になると、あの時の肌寒い秋の夕刻を、いまだに思い出すからだ。これからどうしたものか、うす暗くなった日比谷公園で何度佇んだことか▼それにしても、もう10数年前も昔のことなのに、いまだに感覚として染みついていることに自分自身が驚く。それでも少しずつ薄れてきている。合格した数年間は、ゴールデンウィークですら、なんだか心底からは楽しめなかった▼薄らいでいくこうした感覚とともに、合格当時の弁護士への情熱もすっかり温くなった気がする。間違はなく、ただ、薄らいではいるが消えてはいない秋の憂鬱の気分は、初心を思い出させてもくれる。そうして、毎年ネジを巻き直している気がする。

(高橋 健二)

(会員 水上 裕嗣)

(会員 松岡 泰樹)

憲法が守るのは何なのか？

ヘイトスピーチと『表現』の自由

憲法施行70年記念 連続講座を開催

講演する石橋学氏

7月31日、憲法施行70年記念連続講座の第2回として「ヘイトスピーチ」差別と、表現の自由と」をテーマに、神奈川県新聞デジタル編集委員・石橋学氏の講演会が当学会館で開催された。当日は約150名の参加者があり、会場は満席であった。

石橋氏からは、昨年5月にヘイトスピーチ解消法が成立し、以前より過激なデモは行われにくくなってきたこと、川崎市では、市の施設の利用の基準を定めるガイドラインの策定、ガイドラインを支える人権条例の制定、インターネット上のヘイトスピーチに対する削除要請など、全国でも

最先端の対策が検討されていること、にもかかわらず、ヘイトデモ主催団体は警察から道路使用の許可を得て、7月16日に短時間ではあるが、デモを実施してしまったことなどが報告された。

石橋氏は「ヘイトデモの主催者は川崎市の取組をつぶすことを目標としているが、これを許してはならない。ヘイトスピーチの規制に対しては、必ず『表現の自由』の侵害であるとの反論がなされる。しかしヘイトスピーチは、差別を受けてきたマイノリティーの声を押しつぶすもので、彼らの表現の自由を侵害するものに他ならない。『表現の自由』を主張する人

たちは、差別や被害を受けているマイノリティーの人権をどう守るのかという問いに答えるべきである。参議院法務委員会では、朝鮮人は日本から出て行け、などという敵意に満ちた60万を超える投稿を受け、身の危険を感じている。これを放置していいのか。」と、静かな口調ながら、強く訴えた。

「表現の自由の優越的地位」という教科書的な解釈ではどうしようもない事態に対し、憲法は何を守ろうとしているのか、どう解釈し、行動すべきなのか、弁護士や弁護士会も問われている。日本社会の負の問題に正面から向き合おうとする、ジャーナリストとしての意志が伝わってきた。熱い講演だった。

(会員 高橋 瑞穂)



新聞版

F次長のニチベンの日常

永田町と霞ヶ関を

跋扈する日々

日弁連事務次長・会員 二川 裕之

時の経つのは速いもので、私は、いつのまにか上から数えて2番目の事務次長になってしまい、先任次長（いわゆる「筆頭」をこう呼ぶ）までい

よいよ先が見えてきた。前は主に会内のことを書いたので、今回は対外関係について書きたい。「国会便覧」を座右の書として、とりわけ国会

法改正の際には、日弁連から参考人を出してほしいと与野党双方から要請され、その準備のために1日に何回も往復した

更には、ある議員からは、国会質問のための準備として、日弁連の考える課題について広くヒアリングをしたいと言われ、私が一人で軽い気持ちでノコノコ出かけて行ったところ、鋭い質問の

力のある簡潔な発信が必要不可欠である。当会は、東京に隣接しているにもかかわらず、一般に中央との関係が弱く、その関心も非常に薄いと感じる。ぜひ多くの当会会員に中央での政治や立法の動向等に強い関心を持ってもらいたい。そのためには、機会を見つけて日弁連や弁政連の活動に積極的に参加するなどして、日頃からアンテナを立てて情報収集を心がける必要がある。

もちろん、地元・神奈川県を中心とする活動も大切ではあるが、中央でのダイナミックな政策形成過程等に何らかの形で関与することは、弁護士業務にとっても必ずや良い経験となると思う。

消費者被害相談 指定研修

法律知識を前提に

更なる研鑽を

8月8日、22日、29日に、昨年に引き続き当会の消費者被害相談の指定研修が実施された。これは、昨年度から当会の消

費者被害相談専門相談担当者の登録に、指定研修の受講が要件となったことに伴うものである。当会の消費者被害相談に

は、長らく登録要件（研修の受講要件）がなく、消費生活センター等からこれを改善すべきとの声が上がっていた。そこで、専門性向上の観点から、指定研修の受講を登録要件としたものである。

消費者問題は、日々変化し、悪徳業者の手法も刻々と変化する。これに伴い、法改正が頻繁に行われる分野である。もっとも、悪徳業者は、消費者保護に関する法律が不十分な分野で跋扈するから、法を知るだけでは対応できないという問題がある（例えば、今回の研修で私が担当したクレジットの分野は、割賦販売法の知識だけでは、解決

開会中はフリー通行証を駆使して議員会館に足繁く通った。民法（債権

更には、ある議員からは、国会質問のための準備として、日弁連の考える課題について広くヒアリングをしたいと言われ、私が一人で軽い気持ちでノコノコ出かけて行ったところ、鋭い質問の

力のある簡潔な発信が必要不可欠である。当会は、東京に隣接しているにもかかわらず、一般に中央との関係が弱く、その関心も非常に薄いと感じる。ぜひ多くの当会会員に中央での政治や立法の動向等に強い関心を持ってもらいたい。そのためには、機会を見つけて日弁連や弁政連の活動に積極的に参加するなどして、日頃からアンテナを立てて情報収集を心がける必要がある。

もちろん、地元・神奈川県を中心とする活動も大切ではあるが、中央でのダイナミックな政策形成過程等に何らかの形で関与することは、弁護士業務にとっても必ずや良い経験となると思う。

研修講師を務める筆者

は、長らく登録要件（研修の受講要件）がなく、消費生活センター等からこれを改善すべきとの声が上がっていた。そこで、専門性向上の観点から、指定研修の受講を登録要件としたものである。

消費者問題は、日々変化し、悪徳業者の手法も刻々と変化する。これに伴い、法改正が頻繁に行われる分野である。もっとも、悪徳業者は、消費者保護に関する法律が不十分な分野で跋扈するから、法を知るだけでは対応できないという問題がある（例えば、今回の研修で私が担当したクレジットの分野は、割賦販売法の知識だけでは、解決

委員長 小野 仁司

神奈川県弁護士会 海老名法律相談センター

海老名市めぐみ町6番2号（海老名市商工会館2F）
電話／046-236-5110
インターネット予約はひまわり相談ネットから

予約受付時間／
月～木 10:00～12:15、13:15～17:00
金 10:00～17:00

◆総合法律相談〈45分以内・5,000円〉
火・木 13:30～16:30
金 10:15～12:30

◆債務整理相談〈30分以内・無料〉
水 10:15～12:15
金 14:00～16:00

◆家庭の法律相談〈45分以内・5,000円〉
月・水 13:30～16:30



今年も大盛況！ 士業合同相談会

昨年上回る相談件数

7月29日、当会会館に 同「くらしと経営のなんでも相談会」が実施され、当会主催の12士業合

爽やかな笑顔と頼れる背中で受付を担当する当会会員

7月29日、当会会館に 同「くらしと経営のなんでも相談会」が実施され、当会主催の12士業合
た。担当
は、法律
相談セン
ター運営
委員会の
渉外部会
である。
同相談
会は、昨
年、法律
相談セン
ター開設
30周年記
念イベン
トとし
て、11士
業合同で
実施した
ものであ
り、当初は一度きりの予定であった。ところが、思った以上に相談者や参加士業に好評であったため、継続的な開催が決定され、今回が第2回目の開催となった。
今回参加した「12士業」は、弁護士、税理士、公認会計士、司法書士、行政書士、社会保険労務士、不動産鑑定士、土地家屋調査士、建築士、中小企業診断士、社会福祉士、弁理士である。今年は弁理士会の協力が得られ12士業となった。これだけ揃えば、大概の相談が可能である。今年も複数の士業を回って相談する方が多数見受けられた。特

に今回多かった相続や不動産に関する相談に来た方は、一度に3士業ないし4士業を回って相談できたことに大変満足した様子であった。
なお、昨年の実績は、土曜日の午前10時から午後4時までの6時間で、相談者数54名、延べ相談件数90件であり十分に盛況であった。今年は、開催時間を土曜日の午後1時から午後5時までの4時間に短縮したもの、相談者数60名、延べ相談件数は100件と相談実績は昨年を上回り、ワンストップサービスへの強いニーズを感じた。

更なる充実を図るべく、次回は「13士業」での開催を目指したい。
(会員 畑 裕士)

弁護士として6年 更に研鑽を積みたい

会員 久保 友宏 (新64期)

まだまだ知らないことばかりだ。常議員に就任して最初に感じたのがそれであった。

例えば、会館の敷地使料の問題。会館の敷地が横浜地方裁判所から借りているものであることは知っていた。しかし、さて使用料はいくらなのか？変動はあるのか？誰がどうやって決めているのか？そういった諸事項について、これまで何の意識もせずに会員生活を送ってきた。これらは会

費の使い方を巡る重大な問題である。常議員として様々な資料を読み、承認するか否かの議論に参加できたことは、極めて有意義であった。

また、自分のこれまでの無知と不勉強を晒すように恥ずかしいが、共謀罪法案廃案や精神保健福祉法改正案廃案について会長声明を出すべきか否かが議題となった回では、出席した関連委員会の委員の解説により、法案の問題点や社会・世界

の情勢について、多くのことを学ぶ機会を持てたこととなった。様々な分野について、最先端の知識を持った会員の説明を得られることも、常議員の醍醐味であろう。

その他、常議員として面白さを感じるのは、自身が委員会で関わったテーマが、議題や報告事項として上がってきたときである。現場で練ったことがどのようにして会の総意となり執行されていくのか。会務について大局的な見方を得られるようになった。

私も弁護士として6年目を迎えたが、まだまだ知らないことばかりである。更に研鑽を積み、どんどん議論に参加できるようにになりたい。

常議員会 の い ま

理事者室 だより

理事者はじらじら？

副会長 糸井淳一

「痩せた？副会長はやつぱり大変？」就任後、このような声を掛けられることが多い。確かに就

任してから体重は5キロ減ったが、どうかご安心を。糖質制限の効果であって、決して副会長の激

務や担当委員会のせいではない。

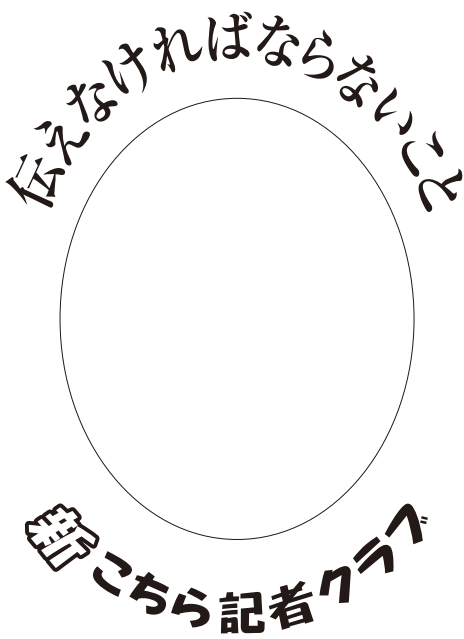
就任から半年が経過し、日々の膨大な決裁書類、週

中の仕事は、依頼者を

の言葉に

できた。被害を受けたときの状況を生々しく語っていただけた貴重な機会だったが、犯

にしよう、被害者の声を聞いて思いを改めた。
一方、被疑者や被告人の話も興味深い。裁判を傍聴すると、被告人の口から罪を犯すに至った複雑な心境を聞くことができる。もちろん、厳しく罰せられる罪を犯すことは間違っているが、被害者に偏った報道をしないよう心がけたい。



私が記者として社会人をスタートさせ、はや半年が経った。
大学入学と同時に広島から神奈川へと身を移し、横浜での生活も5年目だ。入社してからは県警の担当として事件や事故を追い続けている。
記者になって、一般人の目には触れることのない県内の事件事故はこんなにも多く、裁判所でも刑事・民事ともに公判や弁論の数がこんなに多いのかと驚いた。しかし、事件の取材や裁判の傍聴をする

人は恐らく捕まっていない。本人は事件のことを一生忘れることはないが、一方事件に言葉で簡単に片付けられないよう

まだ社会人生活は始まったばかりだが、「伝えたいこと」より「伝えなければならないこと」を考えながら取材を続けていきたい。
(テレビ神奈川報道局 報道部 山本 洋司)



東京へのリベンジ誓う

～関越大会準優勝～

8月5日、群馬県渋川市にて、関越大会が開催された。関越大会とは、毎夏、関東近郊に本拠を構える5チーム（横浜、東京、埼玉、新潟、群馬）で行われているトーナメント戦で、30年以上の歴史を誇る。

投で群馬打線を翻弄し、野手陣も渡辺衛の左越本塁打など15安打・10盗塁と躍動。16-4で群馬を退け、決勝戦へと駒を進める。

1回戦の相手は新潟。先発の辻居弘平は、威力ある直球を軸に、4回まで1人の走者も許さな

い。その後不運な当たりで1点を失うも、5回を投げ被安打1、6奪三振の見事な投球を披露した。打線は1点を追う最終回、新人戸田龍聖の犠飛と河野隆之の右前打で逆転。最後はエース元嶋亮が締め、2-1で辛くも初戦を突破する。

決勝戦は、昨年と同じく東京との対戦に。横浜は19選手を起用する総力戦を展開したが、東京の選手層の厚さと圧倒的な攻撃力、そして1日3試合という過酷な日程の前に力尽き、0-12の完敗。準優勝に終わった。

猛暑の中を戦い抜いた後は、恒例「夜の関越大会」。伊香保の老舗旅館「福一」で懇親会が催された。互いの健闘を称え合った。

懇親会では、新潟戦で起死回生の同点犠飛を放った。

練習は13時からで、部員は新幹線や車などで各自、練習時間に間に合うよう草津まで向かう。私は、草津白根山に登ってから、練習に参加した。

合宿当日、群馬は雨がかなり降っていたため、テニスの練習はないと正直諦めて、温泉でのんびりしていた。ところが、奇跡的に雨が止んだというより、少し弱まった隙に、この状況ならテニスが出来るといふことで練習を開始す

った戸田が敢闘賞を獲得。準決勝で好投した川原、3戦4安打の松永直之、攻守に存在感を見せた根本淳己・毛塚衛など、新戦力の台頭は他チームからも羨まれた。無論、決勝戦で通算1000投球回を達成した大エース畑中隆爾や、目下首位打者の主将西村誠ら、ベテラン・中堅の選手達も負けてはいない。チーム内の競争は例年以上に激しく、野木大輔監督をして「2チーム組める」と言わしめるなど、チームの状態は上がっている。

全員野球で予選を突破し、11月の全国大会では東京にリベンジしよう。そして全国二連覇を！。その決意は、熱い魂の叫びとなって伊香保の石段にこだましたのであった。

（会員 黒江 卓郎）

次代のマリナーズを担う若手選手たち（左から、毛塚、戸田、松永、川原、根本）

追う最終回、新人戸田龍聖の犠飛と河野隆之の右前打で逆転。最後はエース元嶋亮が締め、2-1で辛くも初戦を突破する。続く準決勝は群馬戦。勢いに乗る横浜は、大ベテラン西村隆雄とルーキー川原佑基の継

練習は13時からで、部員は新幹線や車などで各自、練習時間に間に合うよう草津まで向かう。私は、草津白根山に登ってから、練習に参加した。

合宿当日、群馬は雨がかなり降っていたため、テニスの練習はないと正直諦めて、温泉でのんびりしていた。ところが、奇跡的に雨が止んだというより、少し弱まった隙に、この状況ならテニスが出来るといふことで練習を開始す

った戸田が敢闘賞を獲得。準決勝で好投した川原、3戦4安打の松永直之、攻守に存在感を見せた根本淳己・毛塚衛など、新戦力の台頭は他チームからも羨まれた。無論、決勝戦で通算1000投球回を達成した大エース畑中隆爾や、目下首位打者の主将西村誠ら、ベテラン・中堅の選手達も負けてはいない。チーム内の競争は例年以上に激しく、野木大輔監督をして「2チーム組める」と言わしめるなど、チームの状態は上がっている。

全員野球で予選を突破し、11月の全国大会では東京にリベンジしよう。そして全国二連覇を！。その決意は、熱い魂の叫びとなって伊香保の石段にこだましたのであった。

練習は13時からで、部員は新幹線や車などで各自、練習時間に間に合うよう草津まで向かう。私は、草津白根山に登ってから、練習に参加した。

合宿当日、群馬は雨がかなり降っていたため、テニスの練習はないと正直諦めて、温泉でのんびりしていた。ところが、奇跡的に雨が止んだというより、少し弱まった隙に、この状況ならテニスが出来るといふことで練習を開始す

った戸田が敢闘賞を獲得。準決勝で好投した川原、3戦4安打の松永直之、攻守に存在感を見せた根本淳己・毛塚衛など、新戦力の台頭は他チームからも羨まれた。無論、決勝戦で通算1000投球回を達成した大エース畑中隆爾や、目下首位打者の主将西村誠ら、ベテラン・中堅の選手達も負けてはいない。チーム内の競争は例年以上に激しく、野木大輔監督をして「2チーム組める」と言わしめるなど、チームの状態は上がっている。

私のホビー

身近なお城

会員 田淵 大輔

多くの人が城と聞いてイメージするのは、小田原城のように天守閣と石垣を備えた、江戸時代に造られた城ではないかと思えます。しかし、城と呼ばれるものの大半は、戦国時代に、自然の地形

を活かして造られたものでした。戦国時代の城の中で、建造物が残っているものは皆無に等しく、また多くは現代に入ってから都市開発の波の中で、地形そのものが大きく変わってしまひ、痕跡を見つ

けることも難しくなりました。それでも、公園や寺社の敷地、あるいは住宅街の裏山に姿を変えながら、往時の痕跡を留めている城も少なからずあります。

横浜市内でも、小机城（港北区）や茅ヶ崎城（緑区）などは公園として整備され、榎下城（緑区）は寺の敷地として、篠原城（港北区）は住宅街の裏山になりながらも、今でも戦国時代に城として使われていた頃の地形を相当地に残しています。建物こそありませんが、歴史の名を残した武将たちが、命を賭けて戦った夢の跡をた

どることもできます。戦国時代の城には、江戸時代の城のような華やかさはなく、事情を知らない人が見ればただの小山や公園にしか見えないものが大半です。しかし、現地を訪れ、実際に合戦が行われた光景などを思い浮かべながら、長い歲月を超えて現代に残った城跡を眺めていると、感慨深いものがあります。

戦国時代の城は全国至る所にありますし、入場料を取られることもありません。小机城や茅ヶ崎城などは公園として整備されていますから、散歩がてらに気軽に訪れることができます。歴史が好きで、歩くことが嫌いでない方は、是非、自宅近くの城探しから始めてみてください。

（事務局 豊島 健司）

編集後記

山ゆりでも触れられていましたが、司法試験の受験生時代は季節の変化に敏感であった気がします。秋は発表の季節であるとともに、商法・訴訟法を勉強しなければならぬと気が急ぐ季節でした。今はというと、秋は夏季休廷明けで期日が重なったり、年内解決に向けて頑張ったりと、忙しい時期という印象です。四季があつて幸せだと改めて感じます。

和気あいあいと

テニス部夏合宿 in 草津

※1日目（7月29日）

朝5時、自宅を出発。高校生がディズニールンに行くかのような早いな草津であった。

練習は13時からで、部員は新幹線や車などで各自、練習時間に間に合うよう草津まで向かう。私は、草津白根山に登ってから、練習に参加した。

合宿当日、群馬は雨がかなり降っていたため、テニスの練習はないと正直諦めて、温泉でのんびりしていた。ところが、奇跡的に雨が止んだというより、少し弱まった隙に、この状況ならテニスが出来るといふことで練習を開始す

った戸田が敢闘賞を獲得。準決勝で好投した川原、3戦4安打の松永直之、攻守に存在感を見せた根本淳己・毛塚衛など、新戦力の台頭は他チームからも羨まれた。無論、決勝戦で通算1000投球回を達成した大エース畑中隆爾や、目下首位打者の主将西村誠ら、ベテラン・中堅の選手達も負けてはいない。チーム内の競争は例年以上に激しく、野木大輔監督をして「2チーム組める」と言わしめるなど、チームの状態は上がっている。

全員野球で予選を突破し、11月の全国大会では東京にリベンジしよう。そして全国二連覇を！。その決意は、熱い魂の叫びとなって伊香保の石段にこだましたのであった。

練習は13時からで、部員は新幹線や車などで各自、練習時間に間に合うよう草津まで向かう。私は、草津白根山に登ってから、練習に参加した。

合宿当日、群馬は雨がかなり降っていたため、テニスの練習はないと正直諦めて、温泉でのんびりしていた。ところが、奇跡的に雨が止んだというより、少し弱まった隙に、この状況ならテニスが出来るといふことで練習を開始す

った戸田が敢闘賞を獲得。準決勝で好投した川原、3戦4安打の松永直之、攻守に存在感を見せた根本淳己・毛塚衛など、新戦力の台頭は他チームからも羨まれた。無論、決勝戦で通算1000投球回を達成した大エース畑中隆爾や、目下首位打者の主将西村誠ら、ベテラン・中堅の選手達も負けてはいない。チーム内の競争は例年以上に激しく、野木大輔監督をして「2チーム組める」と言わしめるなど、チームの状態は上がっている。

全員野球で予選を突破し、11月の全国大会では東京にリベンジしよう。そして全国二連覇を！。その決意は、熱い魂の叫びとなって伊香保の石段にこだましたのであった。

練習は13時からで、部員は新幹線や車などで各自、練習時間に間に合うよう草津まで向かう。私は、草津白根山に登ってから、練習に参加した。

夏合宿に集まったテニス部の面々

合宿当日、群馬は雨がかなり降っていたため、テニスの練習はないと正直諦めて、温泉でのんびりしていた。ところが、奇跡的に雨が止んだというより、少し弱まった隙に、この状況ならテニスが出来るといふことで練習を開始す

った戸田が敢闘賞を獲得。準決勝で好投した川原、3戦4安打の松永直之、攻守に存在感を見せた根本淳己・毛塚衛など、新戦力の台頭は他チームからも羨まれた。無論、決勝戦で通算1000投球回を達成した大エース畑中隆爾や、目下首位打者の主将西村誠ら、ベテラン・中堅の選手達も負けてはいない。チーム内の競争は例年以上に激しく、野木大輔監督をして「2チーム組める」と言わしめるなど、チームの状態は上がっている。

全員野球で予選を突破し、11月の全国大会では東京にリベンジしよう。そして全国二連覇を！。その決意は、熱い魂の叫びとなって伊香保の石段にこだましたのであった。

練習は13時からで、部員は新幹線や車などで各自、練習時間に間に合うよう草津まで向かう。私は、草津白根山に登ってから、練習に参加した。

合宿当日、群馬は雨がかなり降っていたため、テニスの練習はないと正直諦めて、温泉でのんびりしていた。ところが、奇跡的に雨が止んだというより、少し弱まった隙に、この状況ならテニスが出来るといふことで練習を開始す

った戸田が敢闘賞を獲得。準決勝で好投した川原、3戦4安打の松永直之、攻守に存在感を見せた根本淳己・毛塚衛など、新戦力の台頭は他チームからも羨まれた。無論、決勝戦で通算1000投球回を達成した大エース畑中隆爾や、目下首位打者の主将西村誠ら、ベテラン・中堅の選手達も負けてはいない。チーム内の競争は例年以上に激しく、野木大輔監督をして「2チーム組める」と言わしめるなど、チームの状態は上がっている。

全員野球で予選を突破し、11月の全国大会では東京にリベンジしよう。そして全国二連覇を！。その決意は、熱い魂の叫びとなって伊香保の石段にこだましたのであった。

練習は13時からで、部員は新幹線や車などで各自、練習時間に間に合うよう草津まで向かう。私は、草津白根山に登ってから、練習に参加した。



改修工事を終えた小田原城天守閣

多くの人が城と聞いてイメージするのは、小田原城のように天守閣と石垣を備えた、江戸時代に造られた城ではないかと思えます。しかし、城と呼ばれるものの大半は、戦国時代に、自然の地形

を活かして造られたものでした。戦国時代の城の中で、建造物が残っているものは皆無に等しく、また多くは現代に入ってから都市開発の波の中で、地形そのものが大きく変わってしまひ、痕跡を見つ

けることも難しくなりました。それでも、公園や寺社の敷地、あるいは住宅街の裏山に姿を変えながら、往時の痕跡を留めている城も少なからずあります。

横浜市内でも、小机城（港北区）や茅ヶ崎城（緑区）などは公園として整備され、榎下城（緑区）は寺の敷地として、篠原城（港北区）は住宅街の裏山になりながらも、今でも戦国時代に城として使われていた頃の地形を相当地に残しています。建物こそありませんが、歴史の名を残した武将たちが、命を賭けて戦った夢の跡をた

デスク 記者 早川 和孝 田淵 大輔 高橋 健二 安達 慎司 中島 慶子 波田野 警子 西 雄一郎